



古代吉備国繁栄の証

賞田廃寺跡



指定区分	国指定史跡
読みかた	しょうだはいじあと
所在地	岡山市中区賞田
指定年月日	昭和47年3月16日
解説	飛鳥時代の創建と考えられる備前地域最古の寺院跡。調査により、金堂、東塔、西塔などの主要伽藍が確認されている。両塔に凝灰岩壇正積基壇が使われていることや、出土遺物には瓦の他、奈良三彩、備前焼、中国製磁器等などがあることから、古代吉備国が繁栄し、中央寺院に劣らない寺院内容であったことを示す。
アクセス方法	JR高島駅から徒歩30分、宇野バス四御神線「脇田」から徒歩1分
公開状況	自由
設備	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> 駐車場  トイレ  </div>
備考	賞田廃寺跡は整備され、史跡公園となっています。金堂や塔などの基壇が復元されています。

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	賞田廃寺跡
よみかた	しょうだはいじあと
しょざいち (所在地)	岡山市中区賞田
していたひ (指定した日)	昭和47年3月16日
せつめい	備前(びぜん)の地域(ちいき)で最(もっ)とも古いお寺の跡(あと)です。塔(とう)のあとから、当時(とうじ)はとでもりつばな寺だったと考えられます。貴重(きちょう)な瓦(かわら)や陶器(とうき)などが発見(はっけん)され、古代吉備国(こだいきびこく)がとでも栄(さか)えていたことが分かります。